

Q) ゾロアスター教を信仰してきた人々（信仰している人々）は、特定の職能集団に集中しているのでしょうか。

◇A) 基本として、ゾロアスター教はインド・イラン人の民族宗教ですので、特定集団のみに信仰されているわけではありません。

◆A) 時代にもよりますが、特定の職能集団に絞って信仰されていたと云うことはないと思います。

Q) ソロアスター教の神官の方々はどのように生計を立てておられるのでしょうか。カトリック司祭のように本部から支援や信徒からの寄付によって、生活しておられるのでしょうか。それとも祭祀以外は別の職業についておられるのでしょうか。

◆A) 現在のゾロアスター教神官の方は、本業を持ちながら、それとは別にゾロアスター教の儀礼を執行している場合が多いようです。

Q) ゾロアスター教における「善行」とは具体的にはどのような行為なのでしょう。仏教の五戒やキリスト教の十戒と共通するのでしょうか。

◆A) 火と水を尊ぶこと、清浄を保つことが善行に通じます。五戒や十戒と共通点もありますが、相違点もあります。

Q) 通訳の方がつかっておられた「語彙」についてなのですが、「極楽」「徳」といった仏教的な用語が使われていたと記憶しております。ゾロアスター教における教えもやはり、「天国」や「善」よりは「極楽」や「徳」に近い概念なのでしょうか。

◆A) 仏教的な用語は翻訳過程でのものです。ゾロアスター教の天国＝歌謡の館は、かなり享樂的な性質のもので、仏教の涅槃寂靜の境地とはかなり違います。

Q) ゾロアスター教がこれほど変化しながら続いている事を知りませんでした。現在、どの地域に、どれくらいいるのでしょうか。

◆A) 現在残っているゾロアスター教徒は、インドの西海岸に8万人程度、イランの中央部に1万人程度といわれています。

Q) * * * (判読不能) 商人と関係があるのか。ユダヤ商人、イスラム商人のように？

◇A) 基本として、ゾロアスター教はインド・イラン人の民族宗教ですので、特定集団のみに信仰されているわけではありません。

Q) ソグド人はゾロアスター教徒か。

◇A) ソグド人の多くはアフラ・マズダーを信仰していたので、ゾロアスター教徒と言って良いと思います。

◆A) ソグド人の多くはゾロアスター教徒だったと考えられますが、中にはキリスト教と、マニ教徒、仏教徒もいたと思われます。

Q) 日本でゾロアスター教の寺院はあるの？

◇A) 全国を網羅的、悉皆調査をしたわけではありませんが、私が知る限り存在しません。

◆A) 残念ながらありません。日本在住のゾロアスター教徒は、代わりに仏教寺院に参詣しています。

Q) ゾロアスター教の宗教がルールはあるのか？

◇A) 「アヴェスター」を中心とする教典で、教義の基本が定められています。

◆A) ゾロアスター教の宗教法はありましたが、サーサーン朝が滅んで以降は家族法しか現存していません。

Q) 唐の時代の安史の乱とかゾグト人だそうで、なぜシナでは生き残れなかったのか？

◇A) 基本として、ゾロアスター教はインド・イラン人の民族宗教ですので、それ以外の漢民族等には浸透しにくかったのだと思います。

◆A) おそらく、最近親婚や鳥葬が漢民族には受け入れられなかったからなのだと思います。

Q) イランに残っているゾロアスターの人たちはなぜまだ残っているのか？

◇A) アフラ・マズダーを崇拝する「信仰の力」故だと思います。

◆A) 迫害されながらも、頑張った結果だと思います。

Q) 聖なる火による浄化とは別の火のイメージはあるのでしょうか？火の照らすメタファーで照らし出す、明るみにするというような認識的、グノーシス的な側面は無いのでしょうか？

◇A) 現実世界で、神(アフラ・マズダー)に代理するものは「光」、その光をさらに代理したものが「火」となります。神に代理する「光」には全てを可視化するものという意味が含まれていると思います。

◆A) ゾロアスター教の内部資料では、火と認識能力を結び付けることは無いように思います。そのようなグノーシス主義的発想が出現するのは、12世紀のスフラワルディーまで待たなくてはなりません。

Q) 火教大意の出版の意図の法論を改めて教えてください。

◇A) 明治憲法の制定に伴う「宗教の自由」を論じるにあたって、キリスト教・ユニテリアンの穏健な「拝一神教」理解を紹介したかったのだと考えています。

Q) 儀式や祭りで使われていた香木、種類はどのようなものですか？ 決まったものはありますか？

◇A) 基本として、主要な儀式には 15~20 cmの長さのサンダル・ウッド（白檀）が用いられるようです。

◆A) 大事な儀式の際には、香りが良くて、煙が出ない香木を使います。白檀を使うことが多いですが、これは高価なので、特別な場合に限ります。

Q) 中国には本当に多くの民族が存在しますが、特に（大きく南北に分けて）シルクロード側での「火」のポジションに興味がありますので、現在分かっている範囲を教えてくださいと幸いです。（ぜひ青木先生の御考えをお伺いしたく存じます…！）

◆A) 道教では、五行説に従って、五行の一つである火を重視すると聞いたことがあります。あくまで五行の中の一つです。中国には炎帝や祝融の信仰もありますが、少なくとも唐代にそれらがゾロアスター教と融合したと云う話は聞いたことがありません。

Q) レザーニャー教授の御発表時のスライド中に「犬」（神を守る者として？）が登場したと思いますが、「犬」つながりで）インド・中国・日本では今現在でも「犬」をまつたり神聖な場所に配座したりします（日本では狛犬、中国では獅子から派生したもの など）。現在のイランではイスラムの影響力が大きいでしょうから、「犬」はあまりよろしくないもの（不浄）として扱われることも多いかと思いますが、現在のイラン付近でも「犬」を神聖な生きもの（またはそれに準じるポジション）として見なす宗教・風習はありますか（もちろんゾロアスター教含め）。お教えいただけますと幸いです。）

◆A) ゾロアスター教にとっては、犬は神聖な動物なので、ゾロアスター教村では大事にしています。また、遊牧民にとっても犬は役畜ですから、中央アジアの一部では犬を大変大事にしています。

Q) パミール高原の人々の帰属意識はどこか。イスラムなのかゾロアスターかまたは別の宗教か。

◆A) パミール人は、イスラムの少数派であるイスマーイール派を信仰しています。

Q) 今回はゾロアスター教についてであったが、パールシーやパミール人たちはズルヴァーンまたはズルヴァーン主義についてどのような考えを持っているか。

◆A) パールシーは、ズルヴァーン主義に対して否定的な考えを持っています。パミール人は、そもそもズルヴァーン主義を知りません。

Q 1) ゾロアスター教神官の男女のちがいについて、神官になる道のりやその後には違いはあるのか。

Q 2) ゾロアスター教女性神官はいつから生まれたのか。現代の色々な社会の影響を受けて生まれたのか。

◆A) 女性神官の誕生は近年のことなので、その事情はよく分かりません。

Q) イラン以外に女性の神官は存在するのか。

◆A) インドのゾロアスター教徒は、女性神官を認めていないようです。

Q) アフラ・マズダには「善行」が多ければ死後に会えるようですが、生きている間に会うことはできるのでしょうか。出来るなら、その方法は何でしょうか？

◆A) 生きている間にアフラ・マズダーに会うことは無いと思います。ザラスシュトラ自身も、啓示は大天使から受け取っています。

Q) ゾロアスター教にとっての「天国」とはどのようなものですか。キリスト教・イスラム教と同じでしょうか。地獄とはどんなものですか。

◆A) 天国は、「歌謡の家」と言って、かなり享乐的な正確のもののように思います。地獄は、責め苦に満ちています。地獄の観念の方は、キリスト教やイスラームと共通点が多いように思います。

Q) この世はアフラ・マズダと悪魔（名前は忘れましたが）の戦いと聞いたことがあるが、本日の講演では話されなかったが、どういうことでしょうか。教義にはないのでしょか。

◇A) ペルシア帝国（サーサーン期）後半の国教・ゾロアスター教では善神・悪神が対峙する善悪二元論の世界観が教義となりました。今回のフォーラムのテーマはゾロアスター教の一貫した「本質」と言える、アフラ・マズダー「一神」の崇拜にスポットをあてたので、善悪二元論は後景に退いてしまいました。今年（2024年）3月末に発行する書籍（『奈良県立大学ユーラシア研究センター学術叢書3』vol.4 奈良でゾロアスター教）には、そのあたりの教義の変遷も載せていますので、参考にしてください。

◆A) 大悪魔は、古代語でアンラ・マンユ、中世語でアフレマンです。もちろん、彼らはアフラ・マズダーと対立しています。”

Q) 中島先生の説明スライドで、マホメット伝原著書のプリドゥ（1843-1923）の生没年は別なのは？[初版1697とありますので]

◇A) ご指摘のとおり、プリドゥ（Humphrey Prideaux）は1648年の生まれ、没年は1724年です。ご指摘いただくまで間違いに気づきませんでした。申し訳ありません。

Q) 私はフォーラムの最後に述べられた、松本清張氏の「火の路・火の回路」がきっかけで、氏の仮説・推理でゾロアスター教に興味を持ちました。益田の岩船の近くに住んでいた事もあって身近に感じていました。

「ますだ」がアフラ・「マズダ」に推理された事、飛鳥には他にも謎の石造物が数多く存在し、未だに解明されていません。また奈良市内で育った環境の中で雅楽の胡人面や正倉院にもペルシャ由来の宝物がたくさんあり、ペルシャ等の遠くからの渡来人が多く居たであろう事が、佐保川の「佐保」が Sà bǎoに通じるようで、より信ぴょう性が有るように思いました。

二月堂のお水取り、修験道・仏教の護摩等々火にまつわる宗教行事にも拝火教・ゾロアスター教に起源が有るように思えてなりません。

◇A) 飛鳥・奈良時代の文物にペルシア的要素が混じっていること、また宗教祭式にゾロアスター教との類似性が(部分的に)見られることは確かです。ただ、個人的にはペルシアの文化・習俗・宗教が直接影響しているとは考えにくく、いったん中国(唐など)化されたものが、中国の文化として流入したと考えています。

◆A) 二月堂のお水取りについては、ゾロアスター教の影響を論じる余地があると思います。密教の護摩については、個人的にはゾロアスター教と結び付けるのは難しいと感じています。

Q) 儀式のデモンストレーション、興味深く拝見しました。祈りの響きの尊さは、世界共通ですね。あの文言はどのような言語で唱えておられたのでしょうか。また、それはアヴェスターからのものなのでしょうか。もしそうであれば唱える箇所は、神官さまが選ばれるのでしょうか。それとも、教義の中で古来から定められたものなのでしょうか。

◆A) その言語は、紀元前 1500 年頃の古代イラン語の東方方言です。現代ペルシア語はイラン語の西方方言ですので、この言語の直接の子孫は生き残っていません。儀式の所作と呪文は対応しているので、神官が任意に選んだわけではないと思います。

Q) ゾロアスター教と奈良との関係には、とても興味を惹かれます。今年の正倉院展に、ろうけつ染めの屏風がありました。草木や鳥の意匠の中に、かくし絵的に、何か神格のようなものが浮かび上がる絵でした。また、「安君子」という舞踊の衣装、というのもありました。出尽くした話かもしれませんが、ゾロアスター的なものの伝播の痕跡と捉えてよいのでしょうか。

◆A) 国際色豊かな古代奈良の文化とゾロアスター教の関係は、今後も追究されるべきテーマだと思います。

注：ご質問の表記については、基本的にご提出いただいたとおりとしていますが、明らかな誤植と思われるものについては当方で修正しています。

注：◇A) と◆A) は別個の回答者です。